

【 目 的 】

家庭における電気調理器具はめざましく普及し、調理作業に欠かせないものとなっている。そして、従来使用されている基本調理器具とは異なった機能を示しながら普及している。本研究はこの電気調理器具を使用実態から分類しその特性をみた。

【 方 法 】

① 462世帯について家庭電気調理器具31種を示し所有率・使用頻度・購入希望などを調査した。②31種の電気調理器具について使用時の実態から10項目のイメージを段階によって評価記入させた。この結果より主成分分析を行い電気調理器具別の成分得点よりその特性を分類した。③基本調理器具の保有状態からの器具分類の結果と電気調理器具の分類を比較した。

【 結 果 】

①電気調理器具の所有率は、オーブントースターが77%、ホットプレートが73%、炊飯器ジャー61%でこれらは高率を示した。また購入希望はオープン電子レンジが高率であったが他はあまり高くなかった。②使用実態からのイメージによる主成分分析の結果をⅠ軸(第一成分)Ⅱ軸(第二成分)に各器具をプロットし結果は、Ⅰ軸は『よく使う器具』Ⅱ軸は『多機能性器具』とみることができた。そして4つの特徴をもつグループに分類できた。③基本調理器具の所有率からの分類と比較すると異なった特性がみられた。